

教校部「論註」中西昌弘

『論註』は、曇鸞大師の著作で『無量寿経優婆提舍願生偈註』といい、『往生論註』とも『浄土論註』とも呼ばれ、天親菩薩の『浄土論』（『無量寿経優婆提舍願生偈』）に註解を施したものです。『浄土論』は韻文^{いんぶん}で書かれた偈頌^{げじゆ}と散文^{さんぶん}で書かれた長行^{じやうごう}との二部から成り、『論註』は、これを上下二巻とに分け、上巻は偈頌の註釈、下巻は長行の註釈です。上巻は、いかなる機が阿弥陀仏の救済の対象とされているのか。下巻は、その機がいかなる法によって救済されるのかということ、八番問答や覆本釈を通して明らかにされます。この『論註』は、親鸞聖人に大きな影響を与えた書で、法然聖人によって開かれた念仏往生の法門こそが大乘仏教の究極の教えであることを、念仏成仏という形で証明し、浄土真宗を開かれた根幹をなすものです。授業では、主に『註釈版七祖編』を中心に読みすすめてゆきます。